

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.101/2025.5]



「挑発」 西村一成さん作

ーの正式名称は、「新幹線電気軌道総合試験車」という。七両編成で走行し、運転士、電気・通信の検測担当者や軌道の検測担当者が乗車。運転士はドクターイエロー専属ではなく、新幹線の運転士が兼任している。

東京から博多間を時速二七〇キロで走行しながら、レールのゆがみや架線の摩擦などを検測。検査項目は、電気・通信関係や軌道関係で約七〇項目（T4編成）にもおよぶ。走行時の揺れのデータも収集している。ここで一つ驚いたのが、検測走行には「のぞみパターン」と「こだまパターン」があるということだ。

見た目は黄色で派手かもしれないが、安全・安心な走行を守るために、緻密な検測でしっかり確認作業を行う、まさに縁の下の力持ちである！

T4編成 各号車の役割

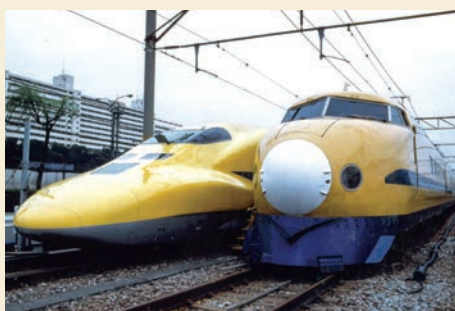


1号車	2号車	3号車	4号車	5号車	6号車	7号車
電力・通信・信号関係の測定機器	電気関係測定機器	電気データ整理室、観測ドーム	測定台車、軌道検測室、施設データ整理室	観測ドーム	電気関係測定機器	添乗員室

新幹線とともに進化！

黄色いのはなぜ？

ドクターイエローが黄色なのは、事業用車だからです！レールなどの点検や工事は基本的に夜間に行うため、保守作業を行う事業用車には目立つ黄色を車面に採用していました。また、ドクターイエローの場合、昼間に走ることもあり、お客さまが間違っ



T1～T3編成は、少し深みの濃いイエローで、T4・T5編成は鮮やかな明るいイエロー。

リーエローにもスピードアップが求められるようになった。そこで、最高速度が時速

二七〇キロの700系をベースにしたT4編成が登場する。

T1編成は電気関係の測定のみであったが、T2編成から電気関係と軌道関係が同時に行えるようになり、機能が向上。新幹線が進化するとともに、ドクターイエローも進化してきたのだ。



おつかれさま！ ドクターイエロー

多くの人々に惜しまれながら引退したドクターイエロー（T4編成）。これから歩み始める第二の人生にエールを送るとともに、その歴史や働きに迫ってみました。

神出鬼没で縁起ものに!?

二〇二五年二月一九日、「ドクターイエロー」の愛称で多くの鉄道ファンを魅了したT4編成が、その役割を終えて引退した。長年、新幹線の検査専用車両として安全・安心な走行のために、電気や軌道関係などの地上設備を検測してきた。走行は約一〇日間に一度、走行する時間は公表されていないことから、まさに神出鬼没。なかなか出会えないレア感や、「新幹線のお医者さん」というイメージから、いつからか「見られたら、しあわせを招く」など縁起のよいものとしても扱われるように。いつ、誰が名付けたのかわからないが、「ドクターイエロー」と呼ばれ、世代を問わず親しまれてきた。だが、老朽化や、お客さまを乗せる営業車両に検測機能を備えられるようになったことから、その役目を次へと引き継ぐことになった。



T4編成とT5編成は、乗務員室の扉に表記された編成番号で見分けられます。

ドクターイエローは、JR東海所有のT4編成とJR西日本所有のT5編成があり、交互に運用していた。今回引退したのは、T4編成で、T5編成は二〇二七年をめどに引退する予定だ。では、その歴史や働きを振り返ってみよう。

まさに縁の下の力持ち！

「新幹線のお医者さん」とも呼ばれるドクターイエロー

ている。このときの

最高速度は時速二二〇キロ。その後、一九九二年に最高速度が時速二七〇キロの300系新幹線が運転を開始すると、速度の遅いドクターイエローの存在がダイヤを設定するうえで制約となり、ドク

試運転車を見つけてみよう!

JR東海が一番重きを置いているのが、「安全」です。現在走っている車両も、お客さまを乗せるまでに、いくつもの機能検査や動作確認を乗り越えなければいけません。安全確認をしっかりと終えた車両は試運転を行い、そこで合格して初めてお客さまを乗せることができます。この試運転では、営業車と同じ速度で走る必要があり、実際の線路を走ることがあります。もちろん、走る時間は非公表。この試運転車とお客さまが出会える確率は、ドクターイエローと同じように低いかも!? 行き先に「試運転」と表示されているので、見つけてみてください!



そして、これまでドクターイエローが行ってきた役割は、JR東海が所有する営業車両「N700S」へと引き継がれていく。

二〇二五年六月、ドクターイエロー「T4編成」はリニア・鉄道館に展示され、第二の人生を歩み始める。展示されるのは七号車のみだが、これからはリニア・鉄道館でいつでもあの黄色の列車を見ることが出来る。しかも、車両の中に入ることできるのだ!

二〇〇一年に登場してからずっと新幹線の安全な走行を守ってきた、その勇姿を見に、さあ出かけよう!

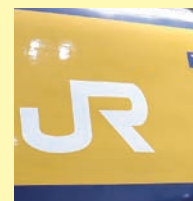
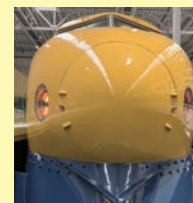
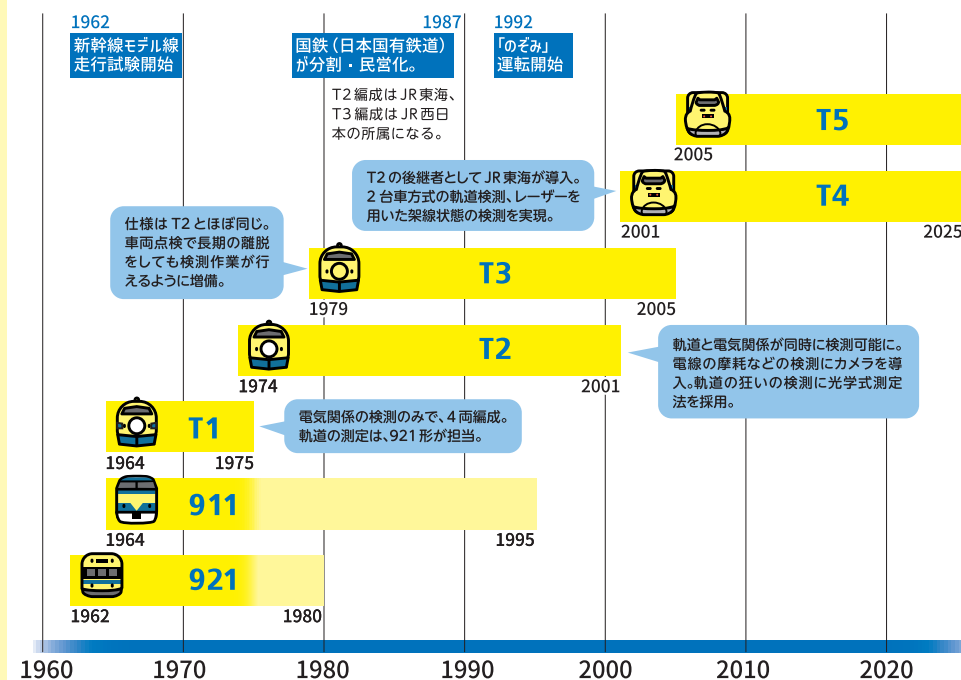
歴代の列車がずらり! リニア・鉄道館。

名古屋の金城ふ頭にあるリニア・鉄道館には、新幹線や在来線など、各時代を駆け抜けた歴代の実物車両が三九車両展示されている。中には、時速二九キロの蒸気機関車や時速四四三キロの新幹線の試験車両、時速五八キロの超電導リニアなど世界最高速度を記録した車両などもあり、その雄大な姿に圧倒されるだろう。鉄道のジオラマや、運転士や車掌（在来線）のシミュレータなどもある。子供も大人も、実物の車両を見て触れなが

元祖は試験走行車!?

1962年、神奈川県内の鴨宮モデル線（綾瀬～小田原間）で、東海道新幹線の試験走行が行われていました。世界初200km/hの高速運転に必要な軌道を整備するために、検測車両として導入されたのが4000形軌道試験車で、のちの921形。1000形新幹線用試作旅客電車の走行試験と併行して検測作業が行われていました。これが、新幹線における検測用車両の始まりといわれています。

検測用車両の変遷



リニア・鉄道館

名古屋市港区金城ふ頭3丁目2-2
 開館時間／10:00～17:30
 (最終入館は閉館の30分前まで)
 休館日／毎週火曜日(祝日の場合は翌日。
 ゴールデンウィーク、お盆、年始期間等一部開館)、年末年始(12/28～1/1)

*入館料など詳しくは、リニア・鉄道館のホームページをご覧ください。



森さんのおすすめ!

N700系新幹線

屋外には、N700系新幹線の先頭車両、一般車両、グリーン車両を展示。車両内でお弁当を食べることもでき、ちょっとした旅気分を味わえます。このN700系は試作車として試験走行をしていたため、普段はお客さまを乗せて走っていないかった車両だそうです。



お話を伺ったのは、JR東海 リニア・鉄道館の 森 岳志さん

試作車と実際の営業車では、車両内の構造に少し違いがあります。その違いを見つけるのも、おもしろいですよ。



ら、楽しく高速鉄道の技術の進歩を感じられようになっている。

想い出、夢、浪漫……。子どもから大人までそれぞれの世代が、さまざまな思いで鉄道の世界にたっぷり浸れるであろう。

第二の人生の始まり

ドクターイエローのラストランの日、博多駅や名古屋駅、東京駅などに驚くほど多くの人々が詰めかけ、別れを告げていた。その景色は、どれだけ親しまれているのかを改めて感じさせた。まさに、鉄道とお客さまをより近づけた貴重な車両であるといえるだろう。



在来線にもドクターイエロー!?

JR東海の在来線では、「ドクター東海」が軌道などの検測作業を行い、安全・安心な走行を守っています。



美術の魅力や新たな価値を届け、 多くの人に親しんでもらいたいです。

平瀬礼太

(愛知県美術館館長
あいちFG教育文化財団 評議員)



■平瀬礼太 プロフィール

1966年、千葉県生まれ。京都大学文学部美学美術史学卒業。姫路市立美術館の学芸員を経て、2016年より愛知県美術館の学芸員を務め、2024年より現職。専門は近代日本美術史で、「銅像受難の近代(吉川弘文館)」「彫刻と戦争の近代(吉川弘文館)」「肖像」文化考(春秋社)」の著書などがある。

大学で美術史を学び、卒業後は姫路市立美術館に就職しました。最初の一年目は仕事の厳しさを痛感し、私にとって真面目に取り組むことの大変さを知り得た、非常に貴重な体験ができた時期でした。苦しみも楽しみもあり、ときには生きがいを感じることがあり、さまざまな感情が沸き起こったことを覚えています。そして、美術を扱っているというよりは、仕事としてどうやったら上手くいくのかということ、を、常に考えていました。

その中でいろいろな人と触れ合い、考えたことは、人は何か目的をもって行動をしているということ。美術館へも目的をもって来られ、その人たちに喜んでもらえることがあることを肌で感じられたときは、うれしかったです。同時に、美術を嫌いな人もおり、皆さんが「いいな」と思うものの幅があることがわかってくると、自分が学んできたことはすごく狭い世界だったと気づかされました。それは悪いことではなく、だからこそ美術という世界をとおして、自分が貢献できることが何かあるのではないかと考えるようになりました。

これまで多くの展覧会に携わってきましたが、もちろん一人でできるものではありません。作品の所有者やメディアなどの協

力、来館される人々によって成り立っています。そう考えると、我々学芸員はキュレーターという意識を持ちながらも、県民をはじめとするさまざまな人々を「繋げる」という役割もあるのかと思います。美術館には美術と人とはもちろん、人と人、役所と人などを繋げる、そんな役割があるのではないかと。

美術は、生きていくうえで絶対ではありませんが、どこかで必要とされているものではないかと思っています。そんなことを特に感じたのが、阪神・淡路大震災のときです。当時、私は姫路市立美術館の学芸員で、震災後も建物の被害は軽微でしたので開館し続けていました。開館については賛否両論ありましたが、神戸から訪れた人が言われた、「しんどくて、ふと美術が観たくなった」という言葉が忘れられないです。美術館を開館することで、救われる人がいることに、私自身も救われました。そして、あらゆる人に開かれた美術館という場所を守っているのは、美術のプロフェッショナルである我々だと思いました。

私は常々、美術館が社会の中で、きちんと美術が位置づけられる起点でありたいと考えています。美術に触れられる場所であるとともに、少しでも何か得られる

場所であつたらいいですね。もしかしたら、「この展覧会を観て画家になった」という人がいるかもしれない。勘違いかもしれないけど、美術館へ行つたことがきっかけで、何か将来に繋がっていく可能性があるかもしれない。そんな可能性を秘めた美術館を、もっと多くの皆さんが親しめる場所にしていくのが私の目標です。

よく美術館の楽しみ方で「自由に観てください」と言いますが、美術初心者にとって、実はそれが一番難しいことなんです。何をどのように観ていいのかわからないです。若い方などで、現代

美術なら何となく今を映しだしているように観られるけど、近代美術以前は知識がないから観方がわからないということ、を耳にします。その考え方が、ある一定以上の世代になる

と逆になるのは興味深いですよね。もちろん、「きれいだな」「なんか好きだな」と、感覚で楽しんでも大丈夫。一方で、知識があるから



こそのおもしろさもあります。会場の解説文を読んでもらえると、知識がない方でもいろいろな角度から作品を楽しめるのではないかと思います。時代背景や作家自身の体験などから生まれた作品も、たくさんありますからね。私が歴史としての美術をずっと考えているので、特にそう考えるのかもしれませんが。

私はもともと調査をすることが好きで、現在は余暇に戦時中の美術について調査を行っています。戦時中の美術は空白期と言われていましたが、実際には軍事関係のものだけでなく、日常の風景のものなど多くの作品が作られ、展覧会も行われていました。戦争に関わるものとして目を背けられがちですが、歴史としてどういう作品が作られていたのかをきちんと伝えていきたいと思っています。

今後美術の魅力や新たな価値を届けていきますので、美術に興味がなかった人も、たくさんある興味惹かれるものの一つとして親しんでいただけたらうれしいです。そして、好きな人にはもともと好きになつてもらいたいですね。――談――

演劇や演奏会などさまざまな舞台衣裳を製作している、まさきよしこさん。二〇二二年より、ダウン症の子どもたちが出演するダンス舞台『HAPPY DOWN'S SHOW!』の衣裳も手掛けている。

条件が異なる舞台衣裳の製作で、共通して言えるのが、動きを妨げない、舞台映えするデザインだ。衣裳は視覚的に入ってくるもので、色や形がイメージを印象付ける。そのため、演劇であれば演出家の話を聞いたり稽古を見学し、役柄にあう衣裳のイメージを膨らませていく。『HAPPY DOWN'S SHOW!』の舞台であれば、子どもたち



が楽しいことは何か、嫌なこととは何かを考えながら、それぞれの個性を出していきけるような衣裳を思案している。

コミュニケーションと観察を大切にしながらイメージを形づくっていく中で、どう自分らしさをプラスしていけるのかが、おもしろいと教えてくれたまさきさん。生地など譲り受けた材料を、どう活かすのかを考えるのも楽しいそう。例えば、『HAPPY DOWN'S SHOW!』の舞台では、東日

本大震災で売り物にならなくなってしまう譲り受けた、白い反物をカラフルに染めて用いた。また、着られなくなった着物の一部を衣裳に採り入れたりすることもある。

「もしかしら眠ったままであったり、捨てられてしまったかもしれないものが、舞台衣裳などに使うことで目の目を見ることができたら、何か少し役に立てたのかなと思います」

作る作業とともに、再生させることにも喜びを感じているまさきさんは、「衣裳には意味」があるという。着ることで気持ちにスイッチが入り、一步を踏み出す勇気がわいてくる、戦闘服になるかもしれない。衣裳を見ることで、あのと

き、あの場面を着ていたなど想い出が蘇ってくるかもしれない。人それぞれ、さまざまな意味を持つものになると。

「作った衣裳が、いろいろな人の想い出の中で登場してもらえたら、うれしいですね。それが、私にとっても意味あるものになります」

子どもの頃、初めて人形の洋服を作ったときの喜びを、今も胸に抱きながら、これからも舞台衣裳づくりを楽しんでいく。



人々の想い出の中にでてくるような、衣裳づくりをしていきたい。

舞台やダンス・イベント等の衣裳製作
まさきよしこさん (ル・ミモザ)
第34回助成 (個人)

2001年より舞台衣裳などの製作を始める。これまでに、里見八犬伝・青い鳥・銀牙伝説ウィード(NHK名古屋児童劇団)、観客(劇団クセックACT)、HAPPY DOWN'S SHOW!(名古屋城北ロータリークラブ)などの衣裳を製作。「楽しむことでいいものができる」と考え、その時々を楽しく過ごすことを心掛けている。また、県立名古屋舞学校生活デザイン科や、高校生向けの家政専門学校で非常勤講師として、特別ではない特別な子どもたちに創造する楽しさを伝えている。



熱田湊にはかつて、天王祭りや大山祭りと呼ばれた祭りがあり、高さ一〇メートルを超える大山(山車)や車楽が曳かれていた。明治時代になると、大山や車楽に替わり五艘のまきわら船が堀川に浮かべられるようになった。しかし、時代の変遷とともに、いつしかまきわら船は陸に上がって神輿として姿を変え、一九七五年頃に一度姿を消す。「まきわら船を堀川に浮かべたい」「祭りの賑わいをもう一度蘇らせたい」



として多くのことを学びました。自分が体験してきたことを、今度は子どもたちに伝えていきたいですね」

まきわら船や大山の復活にあたり、熱田湊には貴重な歴史がたくさんあることに気づいた川口さん。無くなってしまうものの、まちの人々が知らないものを、歴史を大切にしながらなんとか今の時代に合ったものに復活させられないかと思案している。その一環として注目



したのが、熱田で生まれた「神戸節」。江戸時代に大流行し、全国へ広まった都々逸の起源といわれ、七・七・七五の二六文字を三味線にのせて唄うものだ。それに盆踊りのような振り付けを加えて、三味線の生演奏で踊る『浜おどり』として、二〇二三年に初めて宮の渡し公園でお披露目した。老若男女多くの人が参加し、好評で毎年開催へと繋がっている。

現在は大山や花火まで復活し、まちの人々をはじめ多くの人々に喜ばれている。

第一回が開催された頃、小学生であった実行委員長の神谷秀典さんは、慣れ親しんだ神輿が船になつて堀川に浮かぶ姿を見たとき、衝撃を受けたという。その後、回遊するまきわら船に乗ってお囃子を奏でたときは、優越感でいっぱいだったそう。

「子どもの頃に祭りの楽しさを知り、今に繋がっています。楽しさだけでなく、人

川口さんはいう。「ものは作れるが、作ったものを動かすのに必要なのは、やるんだ」という人の気持ち」だと。名古屋で一番熱いまちを目指し、次はどんな楽しみを動かしてくれるのだろうか。期待が膨らむ。



本年度は花火の打ち上げはありません。

浜おどりは2025年9月中旬頃開催予定

名古屋で一番熱いまちを目指して！熱田湊の歴史文化を復活。

熱田湊の伝統芸能文化の再興・継承
堀川まつり実行委員会
第35回助成 (団体)

1990年に発足。現在の会員は46名(男性29名、女性17名)で、下は10代からと幅広い世代が所属している。堀川まつりや浜おどりの開催をはじめ、堀川周辺の清掃、ミニコミ誌「あつたっ子」の発行など地域の活性化に繋がる活動を展開。これからも、獅子舞の再現など祭り行事として楽しめるものを1つよりは2つ、3つと広げていき、熱田湊をもっと盛り上げていくことが目標。



2024年 11月

- **なごや芝居の広場** 第34回助成・団体
「楽屋～流れ去るものはやがてなつかしき～」(名古屋市民芸術祭特別賞「精励賞」受賞作品)〔千種文化小劇場(名古屋市中千種区)〕

2024年 12月

- **少年少女合唱団 地球組** 第35回助成・団体
コンサート2024 ジブリな未来の夢を見た!〔Niterra 日本特殊陶業市民会館フォレストホール(名古屋市中区)〕

2025年 1月

- **名知聡子さん(現代絵画)** 第27回助成・個人
名知聡子「生活」〔小山登美夫ギャラリー天王洲(東京都)〕
- **小島範子さん(演劇)** 第35回助成・個人
常磐津物語〔千種文化小劇場(名古屋市中千種区)〕

2025年 2月

- **名古屋郷土文化会(郷土史)** 第7回助成・団体
「知立山車文楽の魅力」講師：三浦廉司氏、「平和公園と平和堂」講師：中川剛マックス氏〔名古屋市鶴舞中央図書館1F 第1集会室(名古屋市中昭和区)〕
- **筑前琵琶八洲流八洲会(琵琶演奏)** 第22回助成・団体
筑前琵琶連合会 全国演奏会〔名古屋能楽堂(名古屋市中区)〕
- **新野素子さん(染色)** 第2回助成・個人
八奏工芸展〔名古屋栄三越(名古屋市中区)〕
- **日展 名古屋展2025〔愛知県美術館ギャラリー(名古屋市中区)〕**
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人「時の残しもの一声」
森 克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人「稜」
堀龍太郎さん(彫刻) 第11回助成・個人「取れ」

2025年 3月

- **もりっこ彩合唱団** 第26回助成・団体
もりっこ彩合唱団6th コンサート～きのう・きょう・あした～〔守山文化小劇場(名古屋市中守山区)〕
- **Office KAN(演劇)** 第28回助成・団体
第3回 Office KAN キッズミュージカル「臨鬼応戦!かぐや姫」〔昭和文化的劇場(名古屋市中昭和区)〕
- **総合劇集団俳優館** 第26回助成・団体
ミュージック・シアター 「グリム トリムリグ!ムリググリム」〔港文化小劇場(名古屋市中港區)〕〔千種文化小劇場(名古屋市中千種区)〕
- **神田每実さん(造形)** 第6回助成・個人
変質と変容のスパイラル〔戸田倉庫(長久手市)〕
- **小粥幸臣さん(現代美術)** 第34回助成・個人
展覧会“A Hole in the Shouji / 障子のあな”〔JINGU339(名古屋市中熱田区)〕

仲間達の近況メモ

2025年 4月

- **平松八江子さん(ピアノコンサート自主企画)** 第6回助成・個人
第71回 ひらめのほのぼのコンサート
〔熱田生涯学習センター(名古屋市中熱田区)〕

2025年 5月

- **新城吹奏楽団** 第6回助成・団体
第100回定期演奏会～第100回を100人の演奏で～
〔新城文化会館大ホール(新城市)〕
- **総合劇集団俳優館** 第26回助成・団体
「パパパのうた」/「パパパゲノ」と「パパパゲナ」
〔愛知県芸術劇場中リハーサル室(名古屋市中東区)〕
「冬物語」〔栄能楽堂(名古屋市中区)〕

書籍・会報誌等の発行

- **小牧市文芸協会** 第2回助成・団体
1～4月…郷土文芸誌「駒来」第636～639号発行
- **まつり同好会** 第25回助成・団体
1・3月…「まつり通信」635・636号発行
3月…まつり86号発刊 特集「三信遠の芸能と信仰Ⅱ」
- **野田史料館** 第1回助成・団体
1月…「野田史料館報」第171号発行
- **岡崎地方史研究会** 第34回助成・団体
1月…「岡崎地方史研究会便り」No.63発行
3月…「岡崎地方史研究会 研究紀要」53号発行
- **江南郷土史研究会** 第3回助成・団体
2～5月…「江南郷土史研究会会報」552～555号発行
- **長久手市郷土史研究会** 第13回助成・団体
3月…「胡牀石」第65号発行
- **名古屋郷土文化会** 第7回助成・団体
3月…「郷土文化」第79巻第2号発行

これからの公演

- **まさきよしこさん(舞台衣裳製作)** 第34回助成・個人
6/22…「HAPPY DOWN'S SHOW!」
〔北文化小劇場(名古屋市中北区)〕
- **劇団シンデレラ** 第9回助成・団体
7/13…「劇団シンデレラと藤前干潟を体感しよう!」
〔藤前干潟(名古屋市中港區)〕
- **堀川まつり実行委員会** 第35回助成・団体
9月中旬…「浜おどり」〔宮の渡し公園(名古屋市中熱田区)〕

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

刈谷高校の放送部は一時期活動を休止していたが、二〇一六年度に活動を再開。以降は、映像部門、アナウンス部門、朗読部門のいずれかで毎年全国大会に出場という快挙が続いている。だが、それは先輩たちの功績だという、現在の部員たち。先輩たちに続けるように今、一丸となって新たな気持ちで動き始めていた。

映像部門では四、五人でチームを組み、番組を制作する。チームは地元ネタが多いという部長の石塚真由さん。

「地域の歴史や取り組みなど、モノやコトの紹介だけで終わるのではなく、人を描くようにしています」

取材では事前に質問事項などを考えて臨むが、想像していたものと全然違うものがでてくることが多い。そこを掘り下げ、理解を深めていく過程が興味深いと教えてくれた。テーマ決めから取材、編集まで何度もチーム内で話し合い、形にしていくな。

アナウンス・朗読部門は読んで伝えるものだが、その二つには違いがある。自分で取材して原稿を書き、それを読み上げるアナ



「取材者との信頼を得ていく過程や伝え方など、一般的な高校生生活で知り得ない世界に触れられるのは貴重であり、得られるものは多いと思います」

先輩たちの背中から「熱量をもつて取り組みれば、いいものができる」と学んだ部員たち。一つひとつ目の前の物事に、真剣に取り組み強い眼差しが印象的だった。

「自主的に活動に取り組む部員たちの姿を頼もしく思う顧問の辻坂先生は、活動が部員たちの視野を広げているという。」

自主的に活動に取り組む部員たちの姿を頼もしく思う顧問の辻坂先生は、活動が部員たちの視野を広げているという。



部長の石塚さん

長谷さん

熱量があれば、いいものができる！ 一丸となって目指すのは全国大会出場。

放送部 愛知県立刈谷高等学校 第35回援助(高校生)

2016年度に活動を再開。顧問の辻坂先生をはじめ、2名の先生と共に指導。部員数は映像部門8名、アナウンス・朗読部門8名。全国高等学校総合文化祭において、朗読部門が2016年・2024年に、映像部門が2017年～2024年に全国大会へ出場。NHK杯全国高校放送コンテストにおいて、アナウンス・朗読部門が2017年・2023年に、映像部門が2017年・2019年・2023年に全国大会へ出場。校内の放送活動として、昼の定時放送、学校行事の司会、ビデオ収録及び記録保管などを行っている。

顧問の辻坂先生
(2025年3月時点)



● **作者の言葉**
「轍」
あつと云つ間の30年。はじまりのブルーズを貫き歩んで参りますと、いつしかこの山に於て心が舞う様になり、子ども等は美しい、かいじゅう。と呼ばれる絵描きになれました。

西村一成さん作
(第20回助成)



表紙・作品

● **編集・後記**
今回の特集は「ドクタイエロー」。初めてJR東海リニア・鉄道館へ訪れました。実物大の蒸気機関車に感動し、子どもの頃に乘っていた電車を見つけては懐かしんで…。ホームから見るのとはまた違う、電車そのものの大きさに驚き、テンションMAXでした(笑)。個人的には、丸い顔のO系新幹線が好きです!ドクタイエローも展示されるので、ぜひ遊びに行ってみてください。

第36回 (2025年度)

助成対象者募集

募集期間 5月15日(木)～6月30日(月)

募集要項

一般助成

●対象

愛知県内を基盤に、教育及び文化活動の維持発展に努力し、地道に、継続的、独創的な活動を行っている個人又は団体で、次の条件を満たすものとします。

①行政機関(国又は地方公共団体)から助成を受けていないこと。

※助成が反復・継続ではない場合、助成金額が少額の場合はこの限りではありません。

②営利を目的としないこと。

(注)「教育活動」とは社会教育活動(スポーツを含む)を主体とします。「文化活動」とは音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、美術、工芸、文芸、郷土史研究等の分野とします。

●応募または推薦

原則として、個人又は団体からの直接申請としますが、第三者からの推薦申請も認めます。

●助成金の額及び件数

個人に対し、助成金は1件につき30万円を8名以内。
団体は1件につき40万円を10団体以内。

●助成金給付の決定及び通知

給付の決定は選考委員会の選考審査を経て、理事長が決定します。結果は書面にて申請者に通知します。

●助成金給付の時期

助成金は決定通知後、1ヶ月以内に給付します。

●申請方法

◇申請用紙はホームページよりダウンロードしてください。

◇所定の申請書に記入のうえ、5月15日(木)から6月30日(月)までに当財団へ郵送してください。(当日の消印まで有効とします。)

高校生への援助

●対象

愛知県内の高等学校における文化及び体育活動。

●援助金の額および件数

援助金は文化活動が30万円単位、体育活動が50万円単位で、各150万円以内。

●申請方法

「文化活動」においては愛知県高等学校文化連盟、「体育活動」においては愛知県高等学校体育連盟の会長推薦が必要です。

※その他、募集期間等については一般助成と同様です。

※応募の際の申請書並びに添付資料はご返却いたしませんのでご了承ください。

※応募された方の個人情報につきましては、当財団事業にて使用させていただき、当財団の個人情報保護方針に基づき適正に管理します。

お問い合わせ先

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号(あいち銀行本店内)

公益財団法人 あいちFG教育文化財団 事務局

☎(052)262-9601 ダイヤルイン

<https://www.aichibank.co.jp/company/efforts/sustainability/foundation/>



あゆち第101号●2025年5月

発行:公益財団法人 あいちFG教育文化財団

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号

あいち銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)

<https://www.aichibank.co.jp/company/efforts/sustainability/foundation/>

